

## なにやってんだよ!

## ネットワーク管理者・池田の 第9回 メールリスト参加者に告ぐ! 転居届けはお早めに

メールリストに参加していると、とあるメンバー宛のメールが宛先不明となったらしく、そのエラーメールがメールリスト本体に戻ってきてしまっているのに遭遇したことがないだろうか?

### ☺☺ メールリスト上での大迷惑

実社会の郵政省メールでもそうだが、宛先不明になった郵便物は差出人に戻すのが本来だ。もちろん、戻ってきてしまったら宛先をよく確認することになるが、メールリストの場合、あるメンバーが他のメンバー全員のアドレスを把握しているわけではなく、そのメールリストに関する配送リストを変更できるわけでもない。つまり配送リストを変更できるユーザー、すなわちメールリストのオーナー宛にエラーメールを戻すべきである。

その一方で、インターネットでは多種多様な計算機が相互接続しているため、メールリストの扱いがよろしくないメールシステムもあり、受取人がいない旨のエラーメールがメールリスト本体に戻ってきてメンバー全員に配達されてしまうこともある。

### ☺☺ エラーメールの洪水だ!

この戻ってきたエラーメールもメールリストに投げられた通常のメールと同様に扱われて配送され、またや宛先不明のエラーメールがメールリスト本体に戻って来て...といった無限ループとなり、エラーメールの洪水となって、他のメンバーのメールサーバーがディスクフルとなる場合もある。もちろん、その巻き添えでそのドメイン全体へのメールの配送が滞ることもなりかねない。

メールリストにおいては受け取る末端のメールシステムや設定ミスなどで、多数の方々に迷惑をかける場合もありうるため、メールリストによっては参加を断られることもある。

### ☺☺ メール転送サービスには要注意

プロバイダーを変更した場合には、これまで使っていたメールアドレスも変更となる。変更になったことをあちこちにお知らせしたりもするが、それでもいくつかは漏れてしまう。そのため、旧住所に届いたメールを新アドレスに転送してくれる機能がイン

ターネットのメールにおいてもある。UNIXなら「.forward」、プロバイダーではメール転送サービスと呼ばれる機能がそれだ。

旧アドレスから新アドレスへメールの転送を行うと、本来必要のないトラフィックが生じるのであまりよいとはいえない。が、古いメールアドレスに到着したメールがエラーで戻ってしまい、用件が伝わらないことのほうがもっと困る。

もちろん、メールリストからのメールも新しいアドレスへ問題なく転送される。しかし、その転送途中のサーバーでエラーが起こったりすると、どういったことになるだろうか?たとえ転送といえど、メールリストでのエラーメールはオーナーに戻る。エラーメールを受け取ったオーナーは、その中身から誰宛のメールがエラーになったのかを調べることになるが、転送機能を用いている場合でなおかつ(ドメイン名以外の)ユーザー名が異なる転送先などの場合には、誰宛のメールがエラーになったのかを判断するのはほとんど不可能だ。

### ☺☺ 転居届けは迅速に!

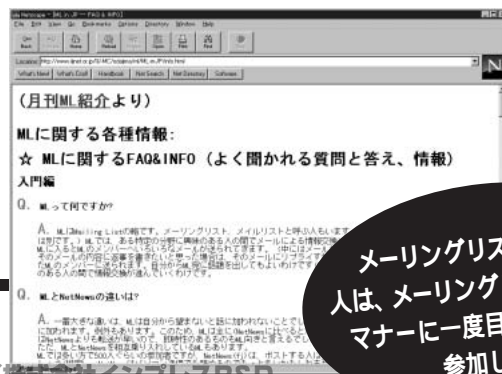
転送を設定し、ある程度の時間が経つと、どのアドレスにどのような転送を設定したのか自分自身でも忘れることがある。個人で読み切れるメールリストの数はそれほど莫大とは思えないので、すべてを変更するのもたいした手間ではないはずだ。自分が参加しているメールリストとその操作方法の一覧を作っておくのも1つの方法だ。メール転送サービスはあくまでも一時的な措置であり、メールリストのオーナーの苦勞を考えれば、参加しているメールリストへの登録内容(配送先)はなるべく早期に変更すべきだ。

インプレスの電子メール新聞、「インターネットウォッチ」もメールリストと同じ方法で配布されており、ここで説明したことがすべてあてはまる。実際、1日に200~300の意味不明なエラーメールが戻ってきているのが実状だ。ネットワークもメールリストも、管理する人が一番大変なのだ。

【MLのマナーに関することが書いてあるホームページ】

URL <http://www.ijnet.or.jp/IJ-MC/odajima/ml/ML-in-JP/info.html>

URL <http://www.plaza.hitachi-sk.co.jp/masa-k/doc/ML-manner.html>



メールリスト初心者の人は、メールリストに関するマナーに一度目を通してから参加しよう



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)